2024年度　大成女子高等学校自己評価表

スクール ミッション	社会に役立つ女性の育成 ・多様化する現代社会を自分らしく生きる女性の育成 ・地域社会と協働できる自立した女性の育成.
教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。
重点目標	不登校生徒や病気療養中生徒の支援に積極的に取り組む。 生成AIやプログラミングなど次代の教育に不可欠な技術について学習を進める。 地域クラブの設立(ダンス、バスケットボール、料理 等)を支援する。

校務分掌 等	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン授業での指導、週1回の提出のほか、HRや他の教科での活用を促す。	A	A	手帳の活用について、積極的に活用している生徒と、そうでない生徒の差が大きい。1年生は週1度の提出をさせているが、2･3年生は生徒任せである。2、3年生担任から生徒へ活用を促す指導が必要であるが、そのためにも手帳利用の効果を担任に理解してもらう必要がある。 継続して行うボランティアとして、五軒小学校開放学級（学童保育）を補助するボランティアを復活させたい。 ボランティアなど地域社会へ積極的に出て活動しようとする生徒が減少している。また、部活動をしながらボランティア活動に参加するのが難しい状況もある。 生徒への声がけの仕方について若手・中堅教員へOJTの充実を図る必要がある。
	生徒が地域社会で活動する機会を増やし、キャリアを考えるきっかけや材料となるようにする。	ボランティアの紹介を随時行い、担任と連携して参加を促し、実施した内容を詳細に記録させる。１年生普通科・家政科のインターンシップについて、教員の負担を減らしつつ地域社会に理解いただける方法を検討する。	A		
	キャリアデザイン科との情報共有をさらに進め、生徒の成長や進路決定につなげる。	クラス担任がキャリアデザイン科の取り組みを把握し、進路選択に向けての生徒への声かけや、調査書・推薦書の内容充実に活かせるようにする。入試での活動報告書に記載できるよう、担任と連携し、部活動の結果も含め、活動の記録をキャリアパスポートに丁寧にまとめるよう促す。	A		
家政科	専門的な知識と技術を生かし、地域社会に貢献できる人材を育成する。	検定の課題と評価について教員間で共有し研鑽を積む。生徒個人の能力に合わせ、実技等においてiPadを活用して個別指導を行う。 実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A	A	検定では、研修に参加し教員間での情報を共有することができた。実技指導においては、安全と衛生に十分気をつけて指導を行い、事故防止の徹底を図った。また、iPadを活用し、個々の能力に合わせた指導を行うことができた。 専門学校の出張授業やパティシエの方からの授業を受けることができ、ウェディングケーキを製作するなど、高度な技術を身につけることができた。 コンテストへの応募も積極的に声かけを行った。
		専門家の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。	A		
		コンテスト等への応募を推進し、生徒の意欲を育成する。	A		
	他者と協働しながら自ら考え行動し、社会に適応することが出来る力を養う。	株式会社アダストリアやユニクロの環境活動に参加し、服育を通じて地域との連携を強化する。	A		昨年度同様、ユニクロの環境活動を行うことで、環境問題について理解を深めることができた。さらに、株式会社アダストリアから環境活動についての講義を受け、サステナブルなファッションの楽しみ方について学ぶことができた。今後も株式会社アダストリア、ユニクロの環境活動を継続して行い、服育を通じて地域との連携を強化していく。 今年度は、学校家庭クラブ活動で行った募金活動で集まったお金の寄付を行い、地域福祉と連携をとることができた。来年度も地域社会や地域福祉の様々な分野で連携を図りたい。
		地域との協働により、社会に適応できる力を身につけさせる。	A		
		地域共生社会実現に向け、学校家庭クラブ活動や専門科目の授業で、水戸市社会福祉協議会と連携し、地域社会についての理解を深める。	A		
看護科 (高校)	人々の健康を守ることへの誇りと自信を持ち学びに向かう力を持つ生徒を育成する。	ICTを活用した学習習慣の定着を図る。 ・Classi・スクールワークによる課題・振り返り ・朝学習、家庭学習時間の確保 ・CAREER HANDBOOKを活用し計画的な学習 ボランティア活動を通して地域社会へ貢献する姿勢をもつ。	A	A	文部科学省より依頼を受け、昨年度はICTの活用状況をポータルサイトへ紹介、今年度は動画にて紹介する機会を得た。さらにICTの活用をシミュレーションやVR学習をすすめられるようDXハイスクール事業への申請を行った。多様な学習方法を積極的に取り入れ効果的に取り組めるように工夫を重ねたい。また新学習指導要領に基づいたシラバスの作成に伴い教科内での共有する時間を持つことができた。さらに内容の精査及び他科目との関連性を見ていく。
	看護師になるという目標をもち一人ひとりを尊重し共に学ぶ態度を養う。	一人ひとりを尊重した進路指導を行う。 ・家庭とClassi、電話を利用した連携 ・毎日の繰り返した生活指導 ・教育相談の活用 グループ学習を通し、互いに認め合い協働する姿勢を養う。	A		転退学者、留年者があったが、一人ひとりを尊重した進路指導の結果と考える。他学年との交流や学習会を通して自分の成長を感じられるよう来年度も生徒との対話を重ねよりよい進路実現に向けて指導を行う。またベネッセの学力テスト、診断を活用、悩みのサインが見られる生徒への声かけと学科内共有、教員間での会議内での連携の強化を図る。
看護科 (専攻科)	看護教育を通して望ましい看護観及び倫理観を育み5年間で看護師国家試験受験資格を取得できる。	2024年度修了生全員の看護師国家試験合格 ・過去問題5年分の完全実施(学習アプリの活用) ・成績低迷者への面談・個別指導(定期的な学習計画) ・各教員への振り分け指導(ケースレポート担当者が継続して支援する。) ・グループ学習の促進 ・各模擬試験の振り返りと弱点診断(業者に協力して頂き分析・検討し教員が共有する。)	A	A	個別指導の強化だけでなく、精神的な安定を図るためのアプローチ行い、合格率100%を達成できた。早期から成績低迷者に対しては学習を確実なものとなるよう国家試験に向けた学習を推進する。また学習アプリの活用を進めることができた。そのため今年度は、学研看パスを利用し、毎回の問題配信により前期中には必修問題40点以上を全員が取れることを目指す。
	生涯にわたって看護を能動的に学び、専門性を高めることにより地域医療に貢献する生徒を育成する。	地域に貢献する看護師の養成 ・県内就職率90%以上、内80％以上は実習病院への就職 ・病院説明会の実施	B		今年度は県内就職97.2%うち実習施設75.7%、進学者1名である。前年度に続き実習病院への就職を促していく必要がある。早期から目標を定め奨学金貸与を含めた活動を計画的にできるよう今年度も病院説明会の開催を年度内とする。生徒それぞれが自己の課題解決に向かえるようアルゴリズム的思考を取り入れ能動的に学ぶ姿勢を養う。
教務部	本校グランドデザインを基に、教育活動および校務の円滑な運営を目指す。	・単位時数に見合う授業時数を確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。 ・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A	A	授業時数の確保、行事の偏りなど、左記の方策全て達成した。次年度も継続してできるよう取り組みたい。
		・次年度選択授業の確定2月末まで ・教員研修の実施 年2回 ・次年度の準備終了 3月31日	A		今回も教務係教員のおかげで次年度の準備を３月末日までに終了できた。次回もできるようにしたい。
		・スクールマスターの設定ができる教員を各学年1名以上にする。 ・各種用度品・消耗品等の節約 ・会議資料のPDF化で用紙代を節約する	A		スクールマスターの使用については十分浸透したが、機能面で物足りない部分があり見直し作業をした。その結果2025年度からベネッセ校務システムを採用、スクールマスターと同時使用をする。今後はベネッセ校務システムの浸透を図る。

学習指導部	スクールポリシー、カリキュラムポリシーに則った学習活動を通して、希望進路を実現できる学力の修得を支援する。	・3年間を通して系統立てた学習指導を行う。 ・全教科でプログラミング的思考を取り入れた授業を行う。 ・入試方式の変化に柔軟に対応するべく、教員の研鑽の場を多く設ける。 ・各教科で研究授業を実施する。 ・教員相互の授業見学を積極的に行う。 ・教科ごとに、教科の特性を踏まえた研修会を実施する。	B	B	各教科の研究授業の実施を徹底できず。全ての教科が研究授業に取り組み、教科相互の授業見学等を通して研鑽に努めるよう実践を促し、教員全体の指導力向上を図りたい。 生成AIの利用、ICTの効果的な活用方法(オンライン利用生徒対応を含む)、生徒の自発的な学習を促す学年単位の取り組み方を継続課題とする。
	ICTを効果的に活用し、不登校生徒や病気療養中の生徒への学習支援など、多様化する学習支援体制を確立する。 また、国公立大学、難関私立大学合格者を増やすために、進学指導の強化を行う。	・多様な生徒個別の能力に応じた学習支援体制を研究する。 ・低学力層の底上げを図る。 ・ベネッセアセスメント国数英３教科・国語・数学・英語の4種類を指標に、D3ランク生徒の学習会を継続的に行う。 ・D3ランク：普通科5名・家政科3名・看護科0名以下 ・Dランク：普通科25名・家政科10名・看護科5名以下 ・大学受験対策の課外授業を実施し、結果につなげる。 ・成績特待生対象の学習会や講演会を継続的に行い、学習意欲の向上を促す。 ・普通科各学年でB1ランク以上５名以上を目標とする。 ・ベネッセアセスメントで年間Aランクの生徒を表彰する。	A		ベネッセアセスメント国数英のD3ランク学習会の対象者(最大数)が1年普通科10名・家政科8名・看護科なし、2年普通科10名・家政科9名・看護科なし、3年普通科11名・家政科2名・看護科なしであった。学習支援センター利用を促し、学年クラス単位での学習支援の工夫を講じたい。 成績特待生のうち、GTZがB以上の生徒は，2年共テ模試6教科総合GTZで7名、1年3教科模試では7名であった。国公立大の一般入試にも対応できる学力養成、指導力向上が喫緊の課題である。課外のあり方も継続課題の一つである。
	生徒の論理的思考や知的好奇心を育て、主体的かつ継続的に学ぶ姿勢を身につけさせる。生成AIの活用について研究する。	・ICT活用に関する研修は実務を通して常に行い、他教科とも共有することで、教員全体のスキルを向上させる。 ・生成AIの現場での活用の可能性について情報を収集し研究する。	B		教科指導やクラス経営の中での生成AIの活用事例を共有し、さらに研究を進める。
入試広報部	本校の学科・教育内容を知ってもらう機会や地域範囲を拡大する。	本校のイメージ定着と教育内容の理解を広げる。	A	A	推薦入試での評定目安は一般推薦受験者増につながっている。天災時などのオンライン授業の評価も良い。京成百貨店や京成ホテルでの展示 （ファッションショーやドレス展示・ケーキ）は良い広報になった。本校のイメージは学力中間層を中心に定着してきており、その層の受験者獲得が重要になる。今後も家政科・看護科の特性をさらに広報しつつ募集活動をすべきと考える。さらに広報活動を進めていく余地がある。
	県内各地域の塾への広報の機会を増やし、生徒確保に努める。	広範囲の在籍生徒数の多い塾を中心に訪問対象塾にする。	A		
	さまざまな場面での具体的なiPad活用方法など特長を広く広報する。	できるだけ多くのイベントに参加し、積極的に広報する。 普通科・家政科・看護科の3学科の特性をさらに広範囲（より広い地域）に広報する。	A		
厚生部	生徒の健康の保持増進を図る。 職員の健康診断について結果の改善に努める。	・手洗い、換気を徹底させる。 ・感染症についての情報を発信し、注意喚起を促す。 ・生徒の検診結果について通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。	A	B	手洗い、教室換気、病院受診・治療の働きかけ等、健康管理の運営・指導は十分にできた。委員会活動、節電の取り組みが不十分であり、活動内容の充実と活発な運営が次年度の課題である。
	学校生活の環境を整える。	・廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 ・節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 ・学期ごとに清掃用具を管理するクラス、団体を確認する。毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。	B		
特別活動部	ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回は皆の前で発表する。 奉仕活動の意義を理解させ50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。	A	A	生徒会活動（挨拶運動等）に積極的に取り組むことができた。今後は全校集会での生徒の発表の場を取り入れていきたい。
	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。	A		撫子祭では多くの招待者が来校しそれぞれ満足していたようである。生徒達の満足度も、高かった。
	部活動の活性化を図るを通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。	生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。	A		各部活動も積極的に活動していた。今後は、さらに活躍できるようにサポートしていきたい。また、物品や交通費の値上がりがあり今後の資金援助について考えて行かなければならない。
	地域クラブ等での活動を支援する。	・行事の中で、動画の活用や、YouTubeなどを用いての実況中継の方法・ルールを模索する。	A		部活動紹介など動画を使っての発表ができた。今後はさらに機器の利用法を学んでいきたい。
進路指導部	キャリア選択と進路決定に向けて、生徒自身が深く考え達成できる力を身につけさせる。	・低学年の進路ガイダンスの時期、方法などを見直す。 ・各種検定試験の受験を促し、特に英語検定、漢字検定２級合格者を増やす。 ・進路未定のまま卒業する者0名、普通科の大学･短期大学進学者60%(77名)以上、普通科･家政科の茨城女子短期大学進学者20%(34名)以上、国公立大学合格者3名以上、私立高校経常費補助金特別加算に該当する大学への進学者１名以上。 ・ハローワークと連携し、希望者全員の正規雇用内定を得る。	B	A	低学年の進路ガイダンスの見直しを実施した。茨城女子短期大学見学会（新規実施）・職業別ガイダンスの実施時期（3月→10月）・卒業生によるキャリアガイダンス（コロナ期にインターンシップの代替として実施していたものを追加実施）アンケートからいずれもほぼ全員「参考になった」と回答。実施の意義を感じた。 進路未定者7名、普通科の大学・短期大学進学者46.1%(59名)、茨城女子短期大学16.2%（27名）、国公立大学2名、上位層の学力向上が必須である。教員の指導力向上と特別活動部と連携し、生徒の学習時間の確保を図ることが重要である。 また、総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できるよう、英語検定の受験の推進、ボランティア活動の推進などが必要である。 教員のAI活用について、一定の研究、試験的実施を行うことができた。次年度以降、3年生の担任を中心に情報共有し、研究を進めたい。
	生徒の状況や能力、希望など個別のニーズに合わせた指導を能動的に行う。	・生徒自身の状況に合わせ、効果的に参加できるようICTを活用する。 ・教員間の情報共有を徹底し、生徒、保護者のニーズを把握する。 ・より適切な進路指導ができるよう、上級学校等の情報収集とその共有を充実させる。	A		
	生成AIなどを活用した先進的な進路指導に関する研究を行う。	・学習指導部と連携し、適切な研修を提供する。 ・Find!アクティブラーナーの活用を促す。	A		

生徒指導部	基本的生活習慣の育成 ・カリキュラム・ポリシーに記載されている小笠原流礼法に沿った挨拶・言葉遣いなどの徹底を図る。 ・正しい学習態度を身につけさせる。 ・正しい制服の着用及び容姿を整えさせることに努める。	・全ての教員による立哨指導での注意喚起を徹底する。 ・校内巡視を定期的に行うことにより指導する。 ・授業開始・終了時に小笠原流礼法に沿った挨拶を各教員が指導する。 ・オール大成で校内外において、制服の乱れた生徒(特にスカート丈、靴下)を見かけたら、躊躇せずその場で言葉をかけて直させる。 ・授業妨害及びこれに類する行為は、教員全員で毅然とした態度で臨む。 ・3年生の中には成人年齢に達した生徒がいるので、本校での躾が完成した形に導いていく。	A	A	校内で服装が極端に乱れている生徒はいなかったが、校外では化粧をしたりスカートの下にジャージを着用する生徒が若干いた。また、スカートが年々短くなってきている。次年度は、担任や学年での指導はもちろんであるが、生徒指導部として集会時に根気強く呼びかける必要がある。
	情報モラルの育成 ・SNS関連の生徒同士或いはネット上におけるトラブルの発生を防止する。	・情報科の授業だけでなく、関連するすべての授業を駆使して情報モラルの向上を図るための指導を実施する。 ・危機意識の向上を促進するため、茨城県メディア指導員及び警察署職員による講話によって注意喚起を促していく。 ・HRでの指導やさまざまな日常の活動を通して、コミュニケーション能力の向上と他者への思いやりの心を育ませる。	A		表面化したSNS関係の事案は少なかった。重点目標に対する方策を徹底し取り組んだからと考えられる。新しい対策を講じるために情報を集め、生徒に実施できるようにしていきたい。
	教員相互間の連携を保ちながら指導にあたる ・学年間の連携に留まることなく、学年の垣根を越えた教員相互の密接な関係構築によるスムーズな指導を実現する。	・生徒指導会議を学年末に開催することにより、情報の共有を図るとともに、ひいては教師間での指導の格差是正につなげる。	A		毎朝の立哨指導のなかで情報共有・連携を図ってきた。学年間で指導にバラツキがあり、そのことが原因でトラブルに発展する可能性があるので、統一した指導を徹底するための方策を考えていきたい。
メディア 統括部	グランドデザインを基に「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。 教務部と連携し、校内情報を利用しやすくすることで、先生方の業務の効率化を図る。 学習指導部と連携して、オンライン授業に対応できる環境と教職員のスキルの充実を図る。	学校案内や情報誌「ToSay!」、懸垂幕などのアナログ媒体と合わせて、ブログおよびSNSなどのデジタル媒体からも積極的にPR活動を行う。Instagramの活性化を第一に考える。	A	A	ToSay!や学校案内書などを積極的に見てもらうために、中学生や在校生が見て楽しい内容になるよう務めた。写真を使用する生徒も同じにならないように、学校アンケートを行い、さまざまな生徒を使用したことにより、興味を持ってもらえたと感じる。 HPデザインは今後変わっていくと思うので、もっと頻繁にブログを配信できるようにする。 InstagramとFaceBookなどはリンクできるので、Instagramとブログがリンクできないか考えている。
		高校WEBサイト内の掲載内容を充実させる。	B		
		教職員及び生徒がICTの利活用に積極的に取り組めるように、生徒用学校指定iPad、職員用PCおよびiPadの活用方法を強化する。	A		
図書館部	蔵書を充実させ、学習センターとしての役割を果たすことで、生徒が「自ら学ぶ」主体的な学習活動を可能にする。	・生徒職員が利用しやすい環境整備を行う。 ・スクールミッション、スクールポリシーに沿い、生徒が学力を向上させ、精神的な豊かさを得て、教養を深めることにつながるように、良書を選び提供する。 ・校務分掌や教科と連携して情報を提供する。 ・選書会議を行い、図書費を有効利用する。	A	A	学年、教科、進路指導部、学習指導部との連携を図り、生徒の学習に有効な書籍選定を強化し、より良い学習環境を構築できた。今後は、各教科や校務分掌との連携を強め、生徒個人の利用だけでなく、ホームルーム時等に学年やクラス単位で資料の有効活用が可能になるようにしたい。
	生徒図書委員会の運営を充実・発展させ、活発な活動を継続する。	・生徒図書委員の活動を支援し、生徒の成長を促す。 ・校外団体との連携活動、コンクール等への応募、出品の際の指導を行う。 ・水戸地区、中央地区、私学等主催の研修会に生徒を参加させる。	A		生徒図書委員会では、充実した活動を行うことができた。対面での地区別生徒図書委員研修会が復活し、他校との情報交換ができたことから、生徒自身が委員会活動を活発化させるための見直しを行い、活動に反映させることができた。
	図書館管理システム「Enju」を活用して、書籍の管理と業務の更なる効率化を図る。	・Enjuによる管理システムを活用して利便性を図り、生徒や教員の利用促進に役立たせる。 ・システム稼働により司書業務の効率化を進め、レファレンスを充実させる。	A		Enju導入作業が進み、バーコード貼付もほぼ完了したことで、利用者の利便性と管理者の作業効率が大きく向上した。今後は、利用者がweb上で予約や購入申請ができるようなシステム構築に努める。
1学年	１．スクール・ミッション「社会に役立つ女性の育成」をもとに、「小笠原流礼法」において、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させるとともに、基本的生活習慣を身につけさせる。	・小笠原流礼法を習得させるため、始業時における挨拶指導を各学期2回以上行う。併せて、心のこもった挨拶や場面に合わせた立ち居振る舞いが身につけられるよう学年集会毎に礼法指導を行う。 ・規範を守る必要性と公共の場においてのマナーとルールを正しく理解させるため、日頃からの声がけを怠らず、実例を示すことで規範意識を高めさせる。	A	A	挨拶指導や礼法指導が日常的な行動として定着するよう、教師主導だけでなく、生徒自身が意識的に取り組めるような仕組みづくりが今後の課題である。 生徒が受動的にならないよう、問いかけや対話を交えた指導を行うとともに、声かけの効果を定期的に振り返り、改善を図っていくことが今後の課題である。
	２．2024年度基本方針である「常に生徒の動向に格段の注意を払い、その外面的・内面的変化を敏感に察知」することを念頭に置き、本年度の重点目標「不登校生徒や病気療養中生徒の支援に積極的に取り組む」ことで生徒・保護者に誠実に対応する。併せて、服装・頭髪違反の生徒に対して根気よく繰り返し指導を続け、規律ある生活を定着させる。	・始業時間前に教室へ入り、始業前の生徒の雰囲気を観察する。また、清掃やホームルーム等の時間を活用して生徒の把握に努めるとともに、生活の乱れや心理的な変化に迅速に対応する。 ・集会等では、開始前に身だしなみを確認しながら整列させる。服装等の乱れはその場ですぐに注意して直させる。 ・保護者へのお知らせ（「Classi」保護者グループ）を、少なくとも月に1回は配信する。 ・生徒からの相談はその日のうちに最優先で対処する。必要があれば保護者に報告するなど、保護者との情報共有を密にし、共通理解と相互協力のもとで生徒を育成する。	B		生活の乱れや心理的変化を把握するだけでなく、生徒が安心して相談できる関係を築くことが今後の課題である。 「なぜ身だしなみが重要なのか」を伝え、納得感を持たせることが今後の課題である。 その日のうちに優先して対処することは重要だが、内容によっては慎重な対応が必要な場合もあるため、関係部署と連携しながら状況に応じた適切な対処ができるようにするとともに、必要に応じて経過観察や追加支援を行うことが今後の課題である。
2学年	「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ための能力を育てるために、主体的に学ぶ姿勢と様々な「挑戦」と「貢献」に必要な学力を養成する。	・進路講演会やガイダンスを通じて、自己の適性や学問領域、職業に対する理解などを深めさせ、進路選択のために必要な学力を向上させるとともに、メディアリテラシーを養わせる。 ・ベネッセアセスメントのD3段階の生徒をなくし、国語テストや英単語テストそれぞれの年間成績優秀者を学年人数の30%以上になるように、家庭学習の徹底を図る。	A	A	生徒との面談を通し、生徒の状況把握に努めると共に、オープンキャンパスへの参加を促した。また、進路ガイダンスや合同HRでの声掛けをしながら、引き続き希望進路実現に向け働きかけたい。 国語テスト・英単語テストそれぞれの年間成績優秀者は学年人数の26%であった。成績向上に向け、家庭学習の習慣を定着させたい。 修学旅行、スポーツフェスティバル、進路ガイダンス等を実施することができた。 染毛・ピアス等で誓約書指導を行った。校則等の規則の遵守するよう継続的に働きかけたい。特にスカート丈・化粧の指導が課題である。 学習機会確保のためのオンライン授業対象者の半数は進級できたが半数は転学となったこの制度で救われる生徒もいるので、該当しそうな生徒や保護者に周知徹底を図ると同時に、転学者ゼロを目指したい。
	「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指して、他者との関係の中で自己を成長させ、体験的な学習活動を通じて社会性を育てる。	・小笠原流礼法の学びを意識して行動させることで、豊かな人間性とコミュニケーション力を身につけさせる。 ・スポーツフェスティバル、撫子祭、修学旅行などの行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感、他者との協働を行う心を育てる。 ・生徒会や部活動、委員会活動を通して、積極的に周囲とのコミュニケーションを図り、自己の役割を全うさせることで、実行力と責任感を養う。	A		
	不登校生徒や病気療養中の生徒の実態を把握し、学校生活が円滑に送れるように支援する。	・生活の乱れや心理的不安に起因する生徒の言動に対しては、保護者と連絡を取りながら丁寧かつ慎重に対応する。 ・支援が必要となる生徒について、養護教諭やスクールカウンセラーと情報共有を図り、保護者と相談しながら必要に応じて学習機会確保のためオンライン授業を行う。また、その展開に関しては、教科担任との連絡を密に行う。	B		

3学年	「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、主体的に行動させ、自己実現を目指し努力させる。	・主体的な学習態度を育成し、学力の向上を図り、進路決定を実現させる。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)D3の生徒をなくし、Cゾーンへの底上げを図る。 ・国語テスト・英単語テストそれぞれの年間成績優秀者数を学年在籍数の20％（約42名）を目指す。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの学校行事への参加を通し、連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩達を指導することにより、責任感を養わせる。 ・挨拶・言葉遣い・時間の遵守・清掃を丁寧に行うなど、身に付けた基本的生活習慣を、実生活に活か せるように指導する。	A	A	進路実現に向けて主体的に学習する姿が見られ、個々の進路に対する目標を実現することができた。 ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンからCゾーンへ移行した生徒がいる。 国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数は、卒業生207名中、国語テストが77名、英単語テストが20名であり、該当者は体調管理とともに、意欲を持って学習をした結果である。 遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの行事では充実した活動を行うことができた。 生徒会、部活動、委員会活動では最高学年としての責任ある行動を取ることができた。 挨拶・言葉遣い・時間の厳守は進路決定に向けた活動を通して培うことができた。清掃においても生徒自身が進んで行うことができた。
	「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、集団生活の中で規律ある態度を養い、心豊かな人間性を育む。	・「小笠原流礼法」を身につけさせ、自立した女性になるために大切な立ち振る舞いを、実生活に活かせ るように指導する。 ・他者との関係の中で自己を成長させ、自立心や相手を思いやることのできる心を育てる。 ・校則に違反した生徒に対しては、丁寧な個別指導をする。 ・制服を正しく着用し、身だしなみを整えるよう、学年の共通理解のもとに指導を行う。 ・ホームルーム活動や学校行事等を通して、協調性や他者の考えを尊重する態度を養う。 ・生徒の情報活用能力を育成するため、ICTを効果的に活用した教育活動を行う。 ・進路指導部と連携して、進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報を提供する。 ・各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、自己の学力を客観的に見ることで、学習意欲を向上させる。 ・成人年齢の引き下げに伴う自己の置かれた環境の変化を理解させ、責任と義務を自覚して行動させる。 ・公共の場においてマナーやルールを守って行動できるよう、日頃から規範意識を高めさせる。	A		最高学年として率先して行動させ、係や委員会、部活動においても、必要な仕事に取り組ませることができた。自己の役割を果たし、リーダーシップを発揮できた者も多く、学校生活を充実させることに繋がった様子である。 進路決定への意識や緊張感が校則の遵守に繋がり、生徒指導の対象となるものはほとんどいなかった。服装などの軽微な違反者や、生活面に懸念のある生徒に対しては、その都度丁寧な声かけや指導を心がけ、保護者とのコミュニケーションを密にしたことで、大きな問題には至らずに済んだ。
	3.「不登校生徒や病気療養中生徒の支援に積極的に取り組む」ことを目指し、生徒の学びの機会を確保する。	・生徒・保護者と連絡を密に取り、生徒の状況把握に努めると共に、当該生徒が登校しやすい環境作りを心がける。 ・生徒が安心して学びを継続できるよう、生徒・保護者と連絡を密にし、学習機会確保のためオンライン授業が受けられるよう教科担当者と連携する。	A		学習機会確保のためオンライン授業の対象となった生徒の3分の1は通信制高校に転学したが、3分の2は無事卒業することができた。
国語	基礎的な学力を充実させ、表現力や理解力を養わせるために、新しい教材やICTを活用した指導方法について研究する。	・「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動促進のためにICTの利用方法の研修を行う。 ・NIEを学習活動に取り入れる。 ・論理的思考力を養う授業展開について研究する。	A	A	ICT機器を活用した授業展開等について、教科で集会を開き、研究することができた。 活用の事例を共有し、全教員が効率的な評価や授業を展開できるようにしていきたい。
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	・学科コースや生徒個人のレベル、進路希望に合わせて学習指導を行う。 ・単元毎に理解度を測り、学習到達度を確認する。 ・進路対策につながる３年間の計画的、継続的な学習活動を支援する。	A		各学科やコースの特性に合わせて、課題の提出方法を変え、個人のレベルに合わせて指導することができた。 単元ごとの理解度を測り、評価や授業改善に繋げることができた。 3年間の学習到達度を教科内で共有できる仕組みづくりや、生徒へ3年間の学習のつながりを意識させることが今後の課題である。
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して基礎力の向上を図る。	・自学自習を習慣化させるために、定期的に課題を出し、基礎学力の定着を図る。 ・課外授業を通して、国公立入試に対応できる力を養成する。	B		国語テスト等の機会で課題を出すことで、基礎学力の定着を図ることができた。 国公立入試に対応できる学力を涵養することは継続的な課題である。来年度以降の課外を通して学習指導を充実させたい。
地歴	新課程の科目に対応し、時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。ipad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。	A	A	効率的な評価法を進めるためにワークや課題を定期的に提出させて、理解度を深めることができた。またICT等の機器を使って効果的に授業を進めることができた。
公民	新課程の科目に対応し、政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。	A	A	効率的な評価法を進めるためにワークや課題を定期的に提出させて、理解度を深めることができた。またICT等の機器を使って効果的に授業を進めることができた。
数学	学習習慣を定着させる。	数学の宿題を定期的に配信する。勉強しやすい課題を精選する。テスト範囲と出題内容を明確にし、生徒が取り組むべき課題を主体的に把握しやすいように工夫する。 ベネッセのテストのGTZがD3の生徒が出ないようにする。現状、課題を繰り返し解けるよう、データでも配信する。	A	A	テスト範囲と課題を連動させ、生徒は取り組み範囲を把握できていたと思われる。 Classi、Teamsでのプリントのデータ配信が積極的に行われ、プリントや問題集を繰り返し取り組む姿が見られた。
	基礎学力の向上を図る。	学習支援センターの利用を促す。 プログラミング思考を身につけさせるために、まずは実際に手を動かして計算することを大切にする。演習を反復するにより計算の正確さとスピード向上を図る。 答えを写して終わりにならないように指導する。	B		わからない問題に対し、答えを写して終わりにしてしまう、「提出が目的」になっている生徒も散見された。教科書範囲に留まらず、定期的な中学校までの基本的内容を繰り返し演習する機会の確保が求められる。
理科	科学的な思考力や判断力、表現力を育成する観点から、観察・実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す学習活動及びそれらを表現する学習活動を充実する。	・ICT教材などを活用することで板書する時間などを減らし、年間の指導計画を見通して観察や実験などを十分に行い、生徒が結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す機会や、それらを行うための時間を確保する。 ・教員間での情報交換の充実を図る。 ・新学習指導要領に合わせた指導方法・評価方法の研究を引き続き行う。	A	A	iPadを使用しさまざまなアプリを活用させ、生徒一人ひとりの取り組みの様子を見て理解度を把握し、個々に応じた指導をすることが求められる。 教員間で情報交換を行い、引き続き新学習指導要領に合わせた指導方法・評価方法の研究を行う。
保健体育	体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせる。社会に役立つ女性になるべく、社会生活における健康、安全に理解を深め、自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を身につける。	個々の運動能力に合わせ到達技能を設定しタブレットを活用して全員がクリアできるよう指導する。 種目の選択ともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。	B	A	タブレットを有効に活用し、動画の撮影から動作の確認を通して発展させていけるように工夫させたい。 全員クリアとはならず、もう少し目標値をやさしいレベルに設定する必要がある。
		オンライン授業に対応するために課題の内容を充実させる。	A		授業展開種目に合わせた課題を作成し、教員間で共有する。それぞれがスムーズに展開ができるように工夫が必要である。

芸術	音楽・美術・書道の基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、主体的に表現活動に取り組ませる。	・基礎的な演奏法や表現技法を習得させ、鑑賞能力を養わせ、さまざまな表現活動に取り組ませる。 ・ICTを活用して、鑑賞の幅を広げ、生徒の創作表現活動の拡大に繋げさせる。 ・教員の実技指導の充実を図る。	A	A	ICT機器を利用することで、各科目の鑑賞の幅を広げることができた。課題の提出、演奏や筆技の指導動画や個別技術指導、鑑賞の際の利便性が向上した。今後も指導力を向上のための研修を続ける。
	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・校内で学習成果を発表する場を設け、表現活動に取り組ませる。 ・校外のコンテストやコンクールへの参加を促し、その支援策として、技術指導を行う。	B		授業内での発表、文化祭での校内展示を行った。外部コンクール等への団体出品は行わなかったが、製作意欲の向上のためにも、次年度は芸術科全体で積極的に挑戦したい。
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を、iPadなどICTの活用を通して図る	e-learning教材を通したライティング活動による「書くこと」の継続的指導をする。	B	A	e-learningの課題配信を週2回定期的に配信しただけでなく、長期休業中にはライティングの課題を配信したが、取り組みを徹底させることが課題である。
	オンライン英会話をはじめとした新しい指導内容や使用教材を有効活用し、基礎力の向上を図る。	3学年全クラスにオンライン英会話を導入し、コースの特性や生徒の希望進路に合わせた指導を実施する。	A		1学年は文法、2学年は修学旅行での英会話、3学年は日常会話のテーマを持って実施した。特進コースは英検対策と、学年やコースに分けてオンライン英会話を実施した。
	英語会話の授業において、反転学習及び生徒主導型の学習を行う。より正確な評価方法を研究する。	Moodleを使用することで、生徒が教材をそれぞれのペースで学習する。	A		Moodleと教科書を併用しながら、生徒たちがそれぞれのペースで学習に取り組んだ。課題の取り組み回数と達成率で、評価を行った。
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発を継続する。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を継続する。	B		教員によって、iPadの活用や英語による授業展開に差があると思われる。外国語科内で、授業展開の方法や取り組みについての情報交換を活性化する必要があると思われる。
家庭	「フードデザインコース」「ファッションデザインコース」の各コースにおいて、職業人としての知識・技能を習得させ深く学べる教育活動を展開する。	ICTを効果的に活用し、生徒の能力に応じた教材等を探究する。生徒一人一人の課題を把握し、多様な能力・適正、興味関心などに応じて指導助言する。 基礎学力の向上と、実技における基礎・基本の定着させる。	A	A	ICTを活用しながら、生徒の能力に応じた教材を探求した。来年度も情報活用能力を活かせるよう、ICT活用を身につけさせる。また、生徒自身の課題について、随時指導助言を行う。
	専門的な技能を習得し、地域社会において主体的に貢献できる人財を育成する。	プロフェッショナルの講師の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。 生徒の活動を外部に発信し、発表の場を多く設ける。	A		専門家や専門学校の出張授業を活用し、直接指導を受けることで、高度な技術を身につけることができた。京成百貨店、京成ホテルにドレスとウェディングケーキの展示を行うことができた。今後も外部への発信をし、生徒作品の発表の場を多く設けていきたい。
情報	情報社会と人間との関わりについて考えさながら、新しい情報社会に対応するためのルールと情報モラルを理解する。	生成AIを活用するメリットとデメリットを理解させる。 SNSを利用するとき、被害者や加害者にならないため、実例動画などを利用し情報モラル指導を徹底する。	A	A	SNSを利用した犯罪が増えている現状を認識させ、自分の問題として考えさせていきたい。様々な場面で生成AIが利用されており、メリットについては理解が進んでいるが、今後はデメリットについても理解させたい。 アルゴリズムやフローチャートについては基本的な構造は理解できた。今後、プログラミング的思考の習得させ、共通テスト対策が課題である。
	新学習指導要領に沿ってプログラミング、データ活用など基本的な情報技術を身につけさせながら、コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザイン能力を育てる。	フローチャートやPythonを用いて、基本構造のプログラムを作成しながら、プログラミング的思考を習得させる。	B		
看護	看護の体系的・系統的な理解と関連した技術を習得し確かな学力の育成をする。	基礎的な看護技術の定着 ・指定日の実習室利用率を60％以上に維持する。 ・主要基礎技術の確認試験の合格率を100％を達成する。 基礎的な看護知識の定着 ・科目試験を再試験により合格する。 ・低学年より国家試験合格への意識づけ （国家試験問題集の朝学習の利用）	A	A	放課後の実技練習を行った生徒は78.6%であり1～3月の利用が少なかった。しかし必要な時には練習をすることができていた。確認試験は100%の合格であり看護技術の定着が図れたと思われる。今後も自己学習の場としても放課後の実習室を活用していく。放課後の実習担当教員が入れない日も多くあるため、日程を精選しベットの稼働率をあげ効果的、効率的な活用が必要である。各学年での技術到達目標に向かって進められるように指導にあたる。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。また、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させる。	学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、日常生活における立ち居振る舞いなど、礼法の基本を理解させる。	A	A	新年度に教員研修を行った。今後も定期的に行い、職員間の意識向上を図っている。礼法の教科書やDVDを使用し、動作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。
キャリアデザイン	キャリアデザインⅡ･B各フィールドにおける本格的な探究型プログラム実施に向けて、監修団体等の指導のもと、地域など実社会との連携を大切にした探究型プログラムの詳細を決定する。	週１回のキャリアデザイン研修時間を確保し、科目、フィールドごとに全員で検討を行う。 地域や外部団体の活動について、積極的に調査、研究を行う。 これまで以上に監修団体等との連携を密にする。	A	A	各フィールドとも生徒の能力に合わせた探究型プログラムを推進できた。また、アート表現フィールド展を校外で実施することができ、地域との連携を推進することができた。今後は、コロナで実施できなくなっていた看護・医療フィールドの医療現場の見学体験などを再開させたい。
	入試システムの変更に適切に対応し、キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、進路指導部と連携し、教科担当全員でフォローを行う。 キャリアデザイン科内で進路指導に関する研修を行う。	A		キャリアデザイン科教員により、関連分野の進路指導をサポートできた。しかし、受験生を１対１で指導しなければならず、キャリアデザイン科教員の負担が大きいことは確かである。生徒が自身の探究活動を適切に表現できるよう、活動内容を詳細に記録させることを徹底させたい。